

---

# 修学旅行

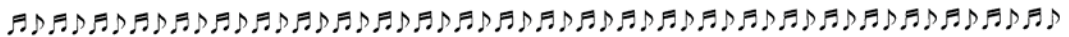
---

## 目次

<b>本報告書の要約</b> .....	2
<b>第Ⅰ章 生徒たちの修学旅行観</b> .....	5
1. 中学3年生にとっての修学旅行 .....	6
1) 修学旅行の体験 .....	6
2) 修学旅行の展開 .....	13
3) もう一度修学旅行に行きたいか .....	19
2. 中学2年生にとっての修学旅行 .....	33
1) 希望する修学旅行先・期間 .....	33
2) 修学旅行に参加する理由、参加したくない理由と目的観 .....	38
3) 服装、おこづかい、グループ .....	42
4) 持っていきたいもの、やってみたいこと .....	44
<b>第Ⅱ章 教師の修学旅行観</b> .....	47
1. サンプル校の概要 .....	48
2. 修学旅行の意義 .....	52
3. 体験学習と自主見学 .....	72
<b>第Ⅲ章 修学旅行のしおりの分析を通して</b> .....	79
1. さじ加減のむずかしさ .....	80
2. 全体としてこまかすぎる .....	80
3. しおりの中から .....	82
4. まとめに代えて .....	106
資料1 調査票見本および集計表（3年生） .....	107
資料2 調査票見本および集計表（2年生） .....	115
資料3 調査票見本および集計表（教師） .....	121

---

\*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。



## 本報告書の要約



### 第 I 章 生徒たちの修学旅行観

#### ① 修学旅行の感想

家族では経験できないことができ (72.5%)、楽しい思い出になった (84.0%)。しかし、先生方はとても大変そうだった (72.3%) (p.7 表 I-2)。

#### ② 印象に残ったこと

「自由行動の時間」(73.7%)と「友だちとの会話」(73.1%)が楽しかった(p.9 表 I-3)。

#### ③ おみやげ

お菓子やキーホルダー(p.15 図 I-3)をお母さんや兄弟姉妹に買った(p.14 図 I-2)。

#### ④ もう一度行きたいか

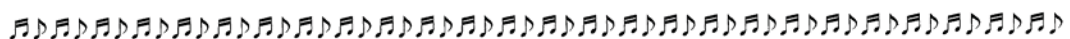
「ぜひ」が56.6%で、これに「かなり」の30.2%を含めると、86.8%が「もう一度行きたい」という(p.20 図 I-5)。

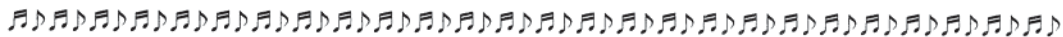
#### ⑤ 旅行の単位

「仲のよい友だちと一緒に」(67.8%)に行動したいという希望が強い(p.28 図 I-12)。

#### ⑥ 中学2年生にとっての旅行

中学校生活の思い出作りに(67.9%)、ふだん体験できないこと(62.8%)をしたいと思う(p.37 表 I-19)。





### ⑦ 中学2年生にとっての服装

制服(23.0%)でなく、私服(71.8%)で修学旅行に行きたい(p.42表I-22)。

## 第II章 教師の修学旅行観

### ① 修学旅行の準備

中学2年生の2学期(23.3%)に計画を立て、3学期に事前の準備(31.2%)をしている(p.51表II-6、7)。

### ② 修学旅行の目的

学校では体験できないことを体験させ(62.6%)、生徒どうしの友情を深める機会にした(46.6%)(p.53図II-3)。

### ③ 生徒の変化

修学旅行をして「クラスの人間関係が深まった」(94.9%)、「生徒と教師の親しさが増した」(92.4%)などの変化がみられる(p.55図II-6)。

### ④ 旅行中のきまり

「生徒の代表と先生とで決める」が46.2%を占めた(p.71図II-14)。

## 第III章 修学旅行のしおりの分析を通して

全体として、個性的なしおりが乏しかったが、その中で、1)事前学習ノートの充実したもの、2)ハンドブックとして充実したもの、3)生徒たちの作るしおり、4)全員の希望を書いたものなどが興味深かった。

### 〔まとめに代えて〕

100人を超えるいたずら盛りの生徒を連れて2泊3日の旅行をする。学校では体験できないことを体験させ、生徒どうしの友情を深め、中学時代の思い出を作らせたい。

教師も生徒も、修学旅行について、そう思っている。しかし、しおりなどの分析を通してみると、実際にはスケジュールに追われ、堅苦しい旅になってしまっている感じが強い。

家族旅行などの機会が多い現代のことゆえ、修学旅行といっても一生の思い出として、旅をする必要はあるまい。それよりむしろ、のんびりと、友情を確かめ合う旅のほうがよいのではないか。京都や奈良、そして日光、広島というようなきまりきったところではなく、近くの海や山で2~3日を過ごす、あるいは関東の学校でも東京をのんびり見学などのプログラムがあってもよいのではないか。

プログラム全体がゆったりしてくれば、それほどきちんとスケジュールを作る必要はなくなり、友だちどうしで小さなグループごとの活動を展開できる。せめて修学旅行くらいスケジュールに追われることなく、のんびりと過ごせるものに性格を変えていったらどうであろうか。

### 〔調査概要〕

- 調査対象●宮城、東京、大阪の中学2・3年生と全国の修学旅行担当教師  
サンプル数●中2=1,196名(男子615名・女子581名)  
中3=1,068名(男子534名・女子534名)  
教師=861名(男性756名・女性105名)  
調査時期●1990年3月  
調査方法●学校通しによる質問紙調査







# 第 I 章 生徒たちの修学旅行観

長嶋 安男	石神井服飾専門学校教頭
鈴木 秀男	東京都小平市立小平第四中学校教諭
森永 徳一	東京都足立区立西新井中学校教諭
伊藤 澄生	東京都新宿区立牛込第二中学校教諭
亀沢 信一	東京都東久留米市立久留米中学校教諭
井上 健	上智大学大学院生
大塚 礼子	東京学芸大学大学院生

# 1. 中学3年生にとっての修学旅行

## 1) 修学旅行の体験

### 旅行の体験

ゴールデンウィークや夏期休暇、正月休みなど、多くの人々が国内を移動し、海外旅行へと飛び立つ。一方、小中高校での修学旅行も決して衰えは見せない。いや、費用などは年々、高額になっていく。そして、長年、中学校に在職した者としては、事前・事後の苦労を知るだけに、その意義を確めたかった。以下、調査の結果を報告しよう。

確かに、家庭での旅行は、すでに一般化した様子である。中学生に聞けば、表 I - 1 に

あるように、3分の2の家庭が数回以上の宿泊を伴う旅行に出かけている。ただ、旅行は、短期間、それも地味なものようだ。欧米と生活様式が相違するからだろうが、ホテルを利用することや、キャンピング・カーでの遠出は経験ないようである。当然、海外にまで子どもを連れ出すのは10%を切る。

もう一つの特徴は、親は子ども1人、または子ども同士での宿泊を伴う旅行は許可しないという点である。子どものほうも、1人での旅行は二の足を踏むのであろう、経験者は1～2割にすぎない。

(表 I - 1) 旅行の体験

	(%)			
	たびたび ある	何回か ある	1、2回 ある	まったく ない
家族と2泊以上の旅行をしたこと	19.9	47.1	20.2	12.8
	67.0		33.0	
キャンプをしたこと	5.0	20.5	34.3	40.2
	25.5		74.5	
都会のホテルに泊まったこと	3.7	15.1	29.9	51.3
	18.8		81.2	
1週間以上の旅行をしたこと	6.0	12.6	20.1	61.3
	18.6		81.4	
乗り物の中に泊まったこと	3.2	12.3	24.6	59.9
	15.5		84.5	
友だちと1泊以上の旅行をしたこと	3.4	9.4	19.9	67.3
	12.8		87.2	
1人で1泊以上の旅行をしたこと	3.3	7.1	10.4	79.2
	10.4		89.6	
外国へ行ったこと	1.9	2.1	5.3	90.7
	4.0		96.0	

## 修学旅行の感想

家族旅行が一般化したとはいえ、現段階では、あくまでも地味なものであってみれば、多くの引率者による安全な修学旅行は、親も生徒たちも強く希望するものなのではあるまいか。生徒の感想(表I-2)では、「中学時代の楽しい思い出になった」がトップに踊り出る。「先生方はとても大変そうだった」という点もわかりはするのだが、「家族では経験できないことをできた」と思う気持ちのほうが強く意識される。「自分ひとりでは経験できな

いことをできた」(63.8%)という感想も多い。

先生方は、生徒たちの目から見ても大変そうなのだから、その苦勞は思いやられよう。この機会に「集団生活の中で必要なマナー・ルールを」とも願われるのだろうが、これは先生方の期待を裏切るものとなる。集団生活のマナー・ルールを学べたとする者で、「とても」と答えた生徒は1割にすぎない。「旅行後、友だちが増えた」(12.0%)という報告も、「旅行後、クラスがまとまってきた」(11.5%)もわずかでしかない。

(表I-2) 修学旅行の感想

	とても そう思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
中学時代の楽しい思い出になった	39.8	44.2	7.3	4.6	4.1
	84.0			8.7	
家族では経験できないことをできた	32.2	40.3	15.1	6.5	5.9
	72.5			12.4	
先生方はとても大変そうだった	35.2	37.1	14.5	4.3	8.9
	72.3			13.2	
自分ひとりでは経験できないことをできた	23.8	40.0	21.3	9.0	5.9
	63.8			14.9	
集団生活の中で必要なマナー・ルールを学べた	10.9	40.2	28.1	12.3	8.5
	51.1			20.8	
地理・歴史の勉強に役立つものを見ることができた	15.3	33.1	26.4	14.0	11.2
	48.4			25.2	
事前の準備や学習が大変だった	16.7	27.8	20.2	24.1	11.2
	44.5			35.3	
ふだん話したこともない友だちとも仲よくできた	16.2	28.3	32.7	11.3	11.5
	44.5			22.8	
旅行後、友だちが増えた	12.0	22.7	42.3	11.6	11.4
	34.7			23.0	
夜は興奮して眠れなかった	12.8	15.7	26.1	22.3	23.1
	28.5			45.4	
旅行後、クラスがまとまってきた	11.5	19.8	40.2	14.1	14.4
	31.3			28.5	
先生といろいろな話ができた	4.2	16.0	39.8	20.3	19.7
	20.2			40.0	

教師と生徒の人的なふれ合い、修学旅行などは絶好の機会と思うが、先生方は忙しすぎるのだろう。「先生といろいろな話ができ」生徒は20%強、反対に、その機会を持てなかった者は4割である。10人のうち2人しか先生と言葉を交わすことができなかった。修学旅行の目標の1つは大きく欠けてしまっている様子である。

### 何が印象に残ったか

高い費用をかけ、準備に多くの時間をかけ、引率教師は不眠の努力を重ねる。それだけのことを重ねながら、修学旅行はどれだけのことを生徒に印象づけたのであろう。表I-3は、生徒の印象を物語る。

印象に残ったことのベスト3は、「自由行動の時間」「友だちとの会話」「旅行先の風景」で、70%を超える。続いて、「買い物」「見学した場所・建物」「乗り物の中」で、60%台。ここで印象は急激に希薄化し、第7位は「宿舎の食事」だが、38.1%となる。さらに、第8位の「入浴」は30%を切る。「ガイドさんの説明」も、半分の生徒は聞いていない。事前学習は、1年～半年前から始められたであろうに、活かしている者は21.8%、「とても印象に残っている」と答えた者にいたっては、5%強にしかすぎない。「説明板やパンフレットの内容」は、読みもしなかったようである(19.8%)。「帰ってきてからまとめたこと」の印象は、まったく希薄そのもので(10.8%)、3人に1人は「ぜんぜん印象に残っていない」ようである。

生徒の修学旅行の受け止め方は、研修では

ないようだ。ふだんの学校における生活から解放されて、せめて修学旅行の間だけでも、「自由行動の時間」を求めるのであろうか。生徒の目は、「研修」より「娯楽」に向いているようだ。友だちとおしゃべりを楽しみ、何をおみやげに買おうかと思いをめぐらせ、乗り物の中では車窓の景色を楽しむよりは、周囲の友だちとのゲームに興じる。回答からは、そんな生徒の姿が浮かび上がる。多少、皮肉をこめていえば、おとな社会の、企業の慰安旅行の「中学生版」というところだろうか。早くから準備し、かげになって生徒を動かす、行き先では寝ずの数日を過ごし、帰校したあとも、事後指導にエネルギーを費やしたであろう先生方の苦労は活かされないのではと考えてしまう。

1つだけ、「慰め」となる回答がある。「先生との会話」が印象に残った者の比率が、24.3%に達している点である。4人に1人は、先生との話が印象に残ったというのである。表I-2の「修学旅行の感想」の中に、「先生方はとても大変そうだった」という回答が、72.3%あったことと合わせて、ホッと息をつく点である。ふだんの学校生活では、先生と生徒が会話を楽しむなどという余裕は、たいへん稀であろう。教師側から考えると、反省をこめていえば、1週間、ついに一度も声をかけずに終わってしまった学級の生徒がいたなどということもあったであろう。それが、4人に1人の生徒が先生との会話に印象を残しているのは、明記しておいていいことではないかと思う。



(表 I - 3) 修学旅行の印象(何が印象に残ったか)

(%)

	とても 印象に 残っている	まあまあ 印象に 残っている	どちらとも いえない	あまり 印象に 残っていない	ぜんぜん 印象に 残っていない
自由行動の時間	41.1	32.6	14.3	5.7	6.3
	73.7			12.0	
友だちとの会話	35.7	37.4	17.1	5.7	4.1
	73.1			9.8	
旅行先の風景	36.3	36.4	16.6	5.1	5.6
	72.7			10.7	
買い物	34.9	32.3	18.3	7.5	7.0
	67.2			14.5	
見学した場所・建物	26.2	40.9	18.5	7.2	7.2
	67.1			14.4	
乗り物(列車やバスなど)の中	20.5	42.2	20.2	9.3	7.8
	62.7			17.1	
宿舎の食事	11.9	26.2	30.7	18.7	12.5
	38.1			31.2	
入浴	7.1	21.1	35.7	19.9	16.2
	28.2			36.1	
先生との会話	4.5	19.8	39.8	18.1	17.8
	24.3			35.9	
旅行前にした持ち物の準備	7.1	16.7	32.5	22.3	21.4
	23.8			43.7	
ガイドさんの説明	6.7	16.1	29.6	23.5	24.1
	22.8			47.6	
先生から受けた注意	6.8	16.0	35.2	20.8	21.2
	22.8			42.0	
事前に学習したこと	5.4	16.4	36.0	19.4	22.8
	21.8			42.2	
旅行先の人々の話	6.3	13.6	33.5	23.2	23.4
	19.9			46.6	
説明板やパンフレットの内容	3.4	16.4	36.6	24.3	19.3
	19.8			43.6	
旅行先の人々の生活ぶり	5.4	13.0	34.1	23.9	23.6
	18.4			47.5	
帰ってきてからまとめたこと	2.1	8.7	36.2	23.0	30.0
	10.8			53.0	

## 修学旅行中の配慮

中学生にとって、修学旅行は非日常の行事、それも最大のイベントであろう。いまは、人々の生活内容も多様化したから、戦前の中学生ほど深い思い出となるとは思えないが、それなりの心くばりはしているのではあるまいか。表Ⅰ-4と図Ⅰ-1について考えたい。

印象のところでも述べたことだが、中学生の配慮も、やはり個人的な自分自身のことに向けられていて、全体のこと、集団を構成している1人としての自分という視点には向けられていない。

自分自身の体調、時間の使い方に関心が集中するのは、必ずしも自分自身のことだけ考えているとはいえないにしても、トップに、「おみやげのこと」(55.2%)がくるのは、「自分の係分担」への配慮(34.7%)や、「学校で

決められたルール」への配慮(27.1%)の低さと考え合わせるとき、中学生の社会性の未発達を表すものではないか。中学生たちは、修学旅行で学んでくることより、遊んでくることを考えているようである。

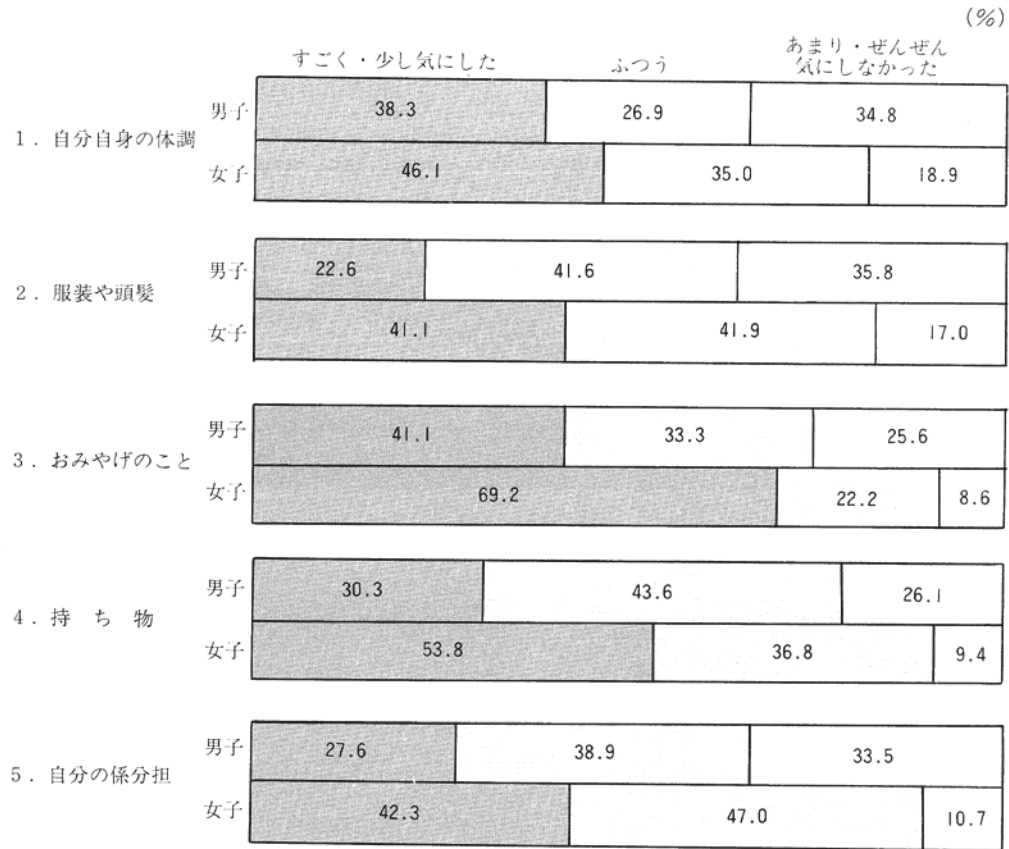
図Ⅰ-1では、男女差についても考えてみた。体調、服装や頭髪、おみやげ、持ち物、係分担の5項目を選んで、男女の関心度の差を調べてみたのである。結果は、体調に関する関心度を除くと、他の項目では、いずれも女子中学生がより配慮をしているのが特徴である。とくに「おみやげのこと」「持ち物」についてみると、関心度の差が20~30%もあり、女子中学生の関心が向かう方向の男子との相違を見せられる思いがした。当然のことだが、気にしないと答えた女子中学生は、どの項目でも20%以下、とくに「おみやげのこと」「持ち物」では10%を切っている。

(表Ⅰ-4) 修学旅行中の配慮

(%)

	すごく 気にした	少し 気にした	ふつう	あまり気に しなかった	ぜんぜん気に しなかった
おみやげのこと	23.0	32.2	27.8	7.5	9.5
	55.2			17.0	
自分自身の体調	14.2	27.9	31.2	9.9	16.8
	42.1			26.7	
時間の使い方	17.5	24.5	35.1	12.3	10.6
	42.0			22.9	
持ち物	16.0	26.0	40.1	8.5	9.4
	42.0			17.9	
自分の係分担	11.5	23.2	43.3	9.7	12.3
	34.7			22.0	
友だちとのつき合い	13.6	19.1	48.8	8.3	10.2
	32.7			18.5	
服装や頭髪	9.9	21.8	41.8	12.1	14.4
	31.7			26.5	
学校で決められたルール	7.1	20.0	45.4	15.3	12.2
	27.1			27.5	

(図 I - 1) 修学旅行中の配慮の男女差



## 修学旅行中の「きまり」について

修学旅行は、集団行動である。しかも、教師としてはおおぜいの生徒を引率しての数日間である。事故があってはならない。勢い、多くのきまりを作る。そして、生徒に守ってもらわねばならない。

しかし、生徒は上記のようにお祭り気分が濃い。きまりは、自由を束縛するものと受け

止める様子である。「消灯の時刻」が早いと受け止める(38.7%) (表 I-5)。ただ、おこづかいをはじめ、他の項目については「きびしすぎる」という受け止め方が少ないのは、現代の中学校の修学旅行が、自由行動やグループ行動を取り入れたり、体験学習を組み入れたりして、かつての集団行動一本槍を改めつつある傾向の反映と考えられる。修学旅行も変化しつつあるようだ。

(表 I-5) 修学旅行中の「きまり」について

(%)

	きびしすぎる	かなりきびしい	ややきびしい	あまりきびしくない	ぜんぜんきびしくない
消灯の時刻	20.7	18.0	34.4	19.3	7.6
	38.7			26.9	
おこづかい	12.8	8.6	26.2	39.3	13.1
	21.4			52.4	
集団(あるいは個人)で行動してよい範囲	12.9	8.7	29.0	35.7	13.7
	21.6			49.4	
宿舎での生活	9.6	9.7	33.8	36.3	10.6
	19.3			46.9	
持ち物	8.8	7.3	28.4	43.7	11.8
	16.1			55.5	
列車などの席のきまり	8.7	5.6	20.3	42.3	23.1
	14.3			65.4	
服装	9.0	4.7	23.7	43.4	19.2
	13.7			62.6	
見学中の態度	6.8	4.5	25.4	48.9	14.4
	11.3			63.3	

## 2) 修学旅行の展開

### おこづかいとおみやげについて

修学旅行の取り組みで、子どもたちの最大の関心事の1つが、おこづかいの金額である。財団法人日本修学旅行協会の調査によると、昭和63年度の修学旅行における生徒のおこづかいの平均額は8,328円で、最高が3万7,000円、最低が1,000円、分布状況を見ると5,000円以上1万円以下が59.2%で一番多く、次いで1万円以上1万5,000円未満が28.1%となっている。地方別では東北地方の学校が最も高く1万3,114円、次いで北海道の8,639円、関東の8,197円、最も低いのは近畿の6,643円で東北の約半分である。

今回の調査でも学校によって差があり、秋田県のA校は2万4,000円、宮城県のB校が1万5,000円、東京の都心のC校が5,000円で、これ以外でも東北地方の学校はすべて1万円以上、東京の学校は5,000円～8,000円、大阪の学校は5,000円～6,000円であった。東北地方の学校の多くが首都圏に、東京の学校が関西や東北方面に、大阪の学校が中部・北陸方面に行くことを考えると、大都市地域以外から大都市への修学旅行のほうが、おこづかいの金額が高いようである。

さて、おこづかいはグループ別行動などの交通費や入場料などにも使われることもあるが、その多くは「おみやげ代」として使われる。おみやげを選ぶときの子どもたちはとても楽しそうで、制限時間ぎりぎりまで売り場の中をウロウロしている。おみやげは表I-6のように96.9%の子どもたちが買っているが、買わない子は女子よりも男子のほうが多い。そして買った対象(図I-2)をみると、お母さん、兄弟姉妹、お父さん、自分という順で、やはり家族が多い。その中で、お父さんよりお母さんが多いのが注目される。また学校の後輩に対して、女子が男子の3倍以上買っているのも目立っている。買ったもの(図

I-3)は、お菓子、キーホルダーと、どここの売店でも売っていて手軽に買えるものが多い。女子は男子よりもお菓子、人形を多く買い、逆に男子は陶磁器、トレーナーやTシャツ、酒やワインを好んでいる。

おみやげ代として使った額(表I-7)は3,000円～5,000円が多いが、学校によって差がある。前述のB校(おこづかい1万円以下)では5,000円～8,000円が、C校(おこづかい5,000円以下)では3,000円～5,000円が最も多い。B校の73.9%、C校の83.6%の子どもが制限金額以内を使っている。旅行前に予定していた金額よりオーバーしてしまった子どもは、意外に少ないようである。

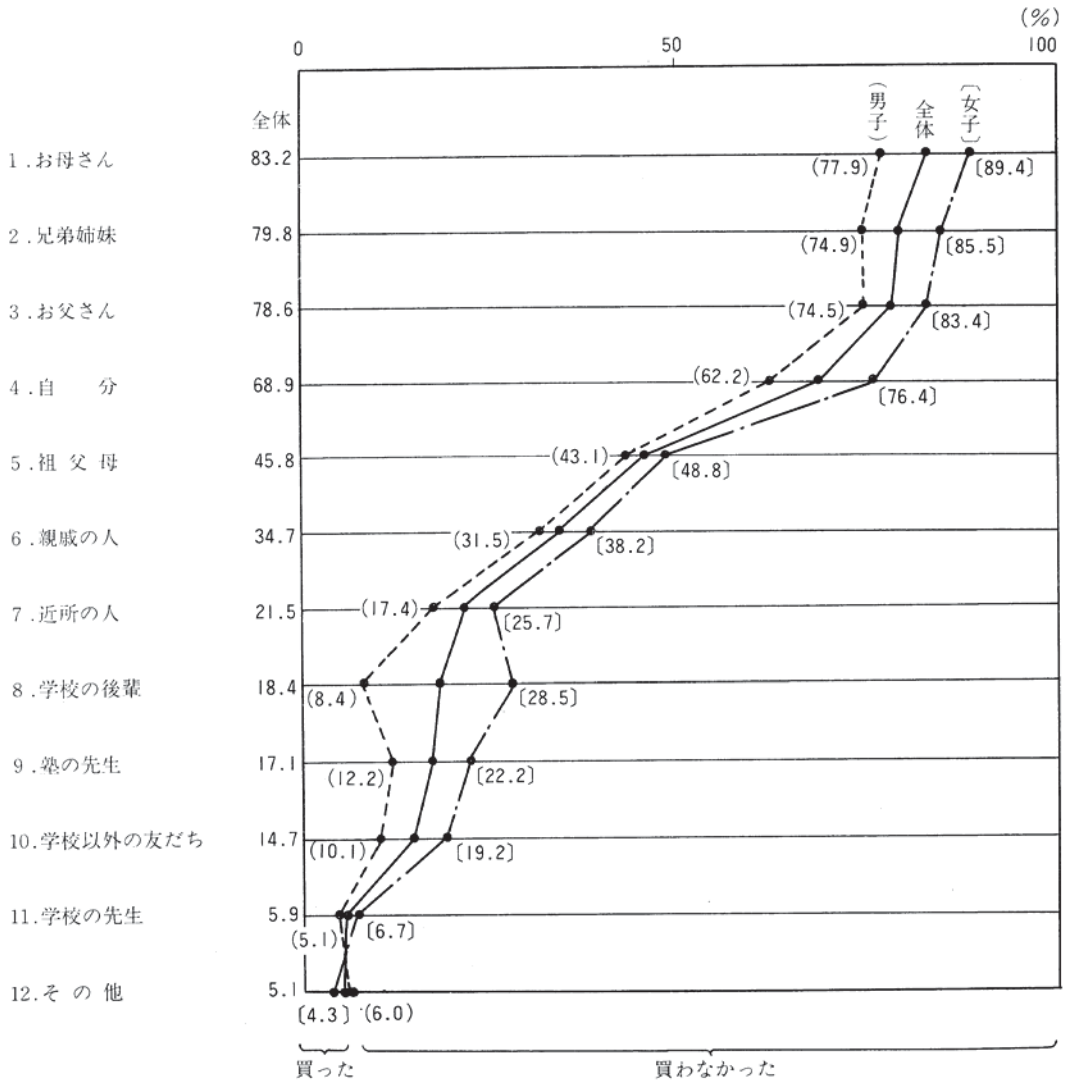
おこづかいの希望額(表I-8)であるが、B校で1万円～2万円を希望している子どもが多いのに対し、C校は5,000～1万円が多い。現在の制限金額よりも多くしてほしいという気持ちが表れている。全体で見ても、全国平均の8,328円よりも高い金額に希望が集中している。おこづかいの金額を決めるときに、子どもたちは前年度の金額よりも多く要求してくるものだが、基準は地域や学校によって違うようである。

(表I-6) おみやげを買った割合

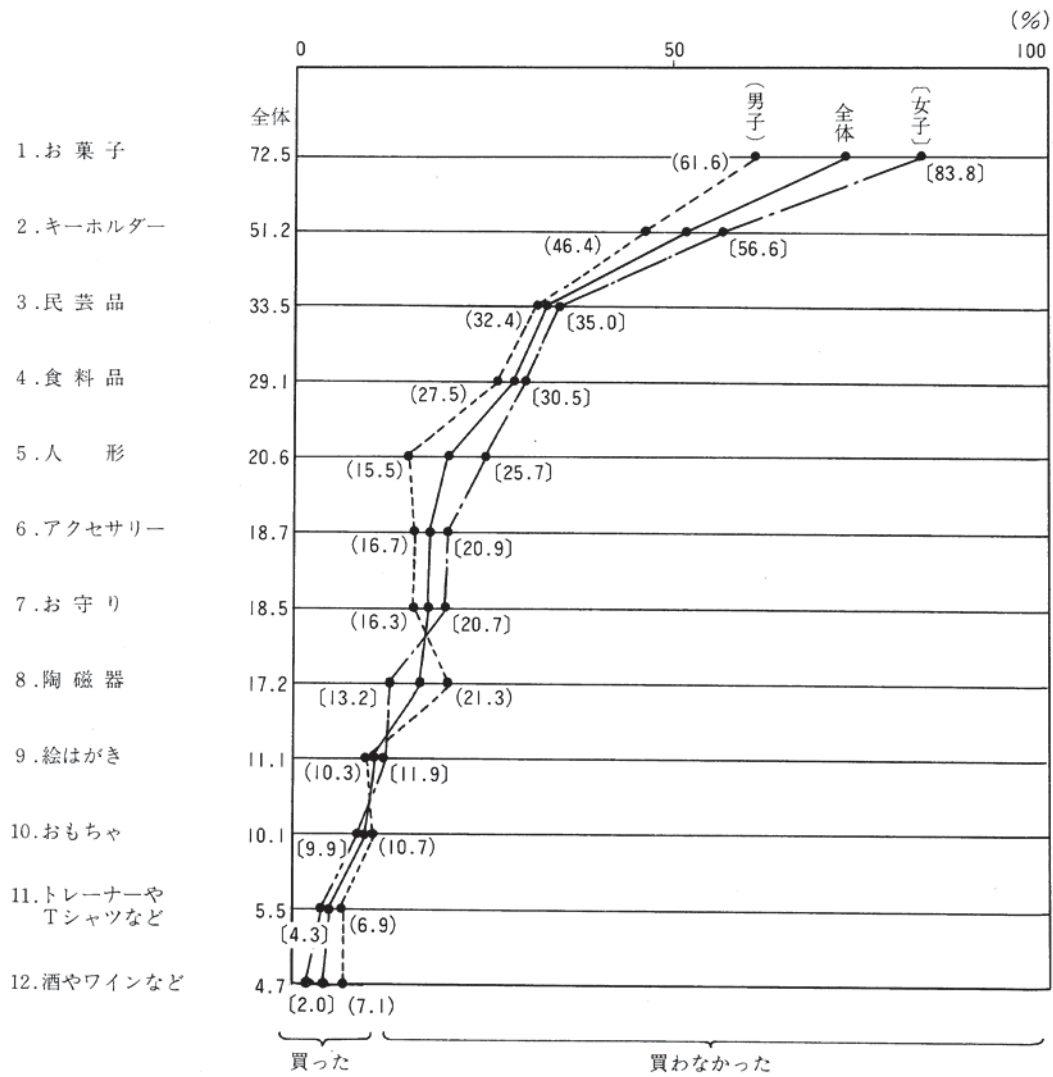
(%)

	買った	買わなかった
男子	94.9	5.1
女子	98.9	1.1
全体	96.9	3.1

(図 I - 2) おみやげを誰に買ったか



(図I-3) どんなものを買ったか



(表 I - 7) おみやげ代の予定と実際

(%)

		~3000円	~5000円	~8000円	~10000円	10001円~
予 定	B校 (おこづかい 1万円以下)	5.6	16.2	23.5	31.2	23.5
	76.5					
	C校 (おこづかい 5千円以下)	32.1	53.8	4.7	7.5	1.9
85.9						
全 体		17.7	31.3	14.3	21.6	15.1
実 際	B校 (おこづかい 1万円以下)	9.4	13.3	27.9	23.3	26.1
	73.9					
	C校 (おこづかい 5千円以下)	36.7	46.9	10.2	3.1	3.1
83.6						
全 体		20.1	26.5	20.4	15.8	17.2

(表 I - 8) おこづかいの希望額

(%)

	いない	1000円以上 3000円未満	3000円以上 5000円未満	5000円以上 10000円未満	10000円以上 20000円未満	20000円 以上
B校 (おこづかい 1万円以下)	1.9	2.9	1.9	14.4	50.2	28.7
78.9						
C校 (おこづかい 5千円以下)	4.2	3.5	16.8	39.8	14.7	21.0
75.5						
全 体	1.8	3.4	8.9	27.7	36.3	21.9



## 「体験学習」について

修学旅行に「体験学習」を取り入れる学校が徐々に増えてきている。財団法人日本修学旅行協会の調査によると、昭和59年度は12.3%の学校が実施したのに対し、昭和63年度は20.7%である。単なる見聞のみの旅行ではなく、生徒が主体的に取り組めるように自分の体を動かしてなんらかの経験をするような活動を取り入れようという意図が表れている。

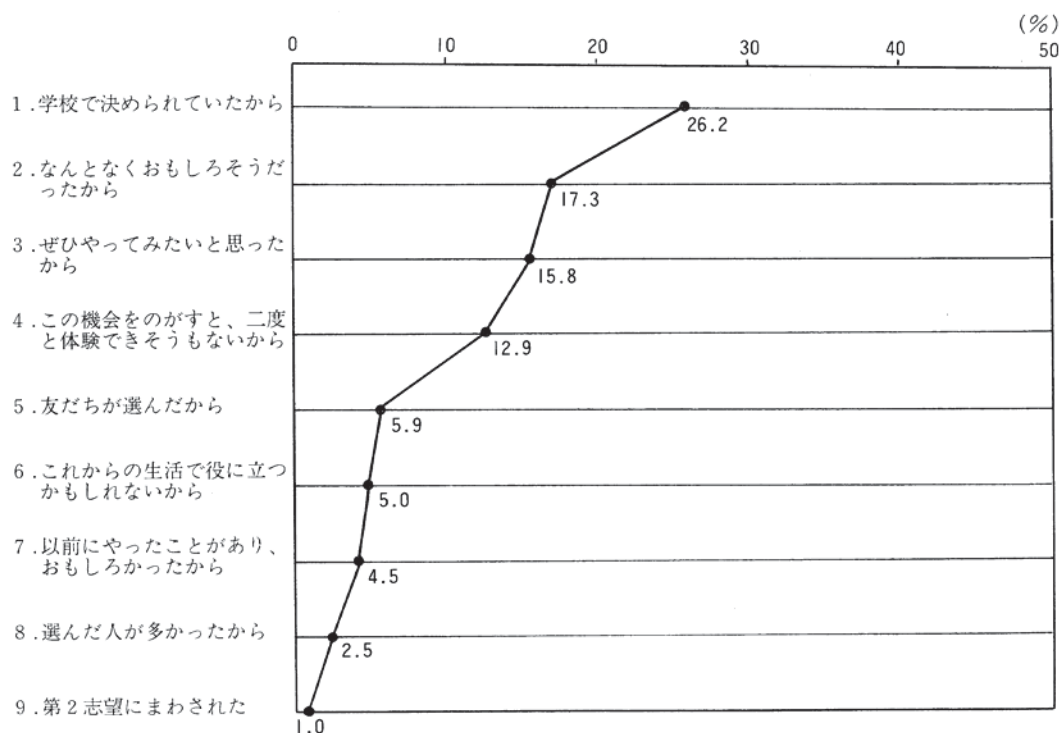
地方別にみると、北海道33.3%、関東28.2%、近畿24.4%の順で、一番実施率が低いのは東北の5.4%である。北海道の学校は東北地方へ、関東地方の学校は東北と近畿へ行くところが多いが、東北や近畿では他の地域よりも体験学習が盛んに行われている。逆に、東北地方の学校の多くが行く関東地方は見学する場所が多いが、体験学習するようものが少なく、時間の余裕もないようである。

体験学習に配当する時間は1～3時間が最

も多く、全国平均で2.0時間となっている。体験の内容は、焼物作り・陶器絵つけなどが36.3%、民芸品・玩具作りなどが20.8%で、この2つを実施する学校が多い。

それでは、子どもたちはこの体験学習についてどう思っているのだろうか。今回の調査の対象となった子どもたちが体験したものは、踊りを習う、せんべいを焼く、わらざうりを作る、魚のつかみ取り、地引き網を引くなどであるが、それらを選んだ理由(図I-4)は、「学校で決められていたから」というのが26.2%で最も多い。いろいろな種類のもを同時にできる場所が少ないことと、いくつにも分けると指導がたいへんであるなどの理由で、全員に同じ内容をやらせる場合が多いようである。しかし、「なんとなくおもしろそうだった」「ぜひやってみたいと思った」「この機会をのがすと、二度と体験できない」「これからの生活に役に立つかもしれない」「以前にやったことがあり、おもしろかった」とい

(図I-4) 体験学習を選んだ理由



うように、興味をもって取り組んでいる様子  
がうかがわれる。

次に体験学習に対する評価（表 I - 9）で  
あるが、「おもしろかった」58.1%、「時間が  
短かった」57.6%、「いい経験になった」55.3  
%など、全体的にいい印象をもっているよう  
である。そして体験学習への要望（表 I - 10）  
は、「たくさんのプログラムから選べるように  
してほしい」70.0%、「時間を長くしてほしい」

64.0%、「内容を考えてほしい」62.5%など、  
もっと充実した体験学習をしたいと希望して  
いる。そして、体験学習を取り入れることに  
対しては肯定的である。体験学習に費やせる  
時間、事前の準備、受け入れ側の態勢など、  
いろいろなむずかしい問題があるが、実施す  
るからには子どもたちが満足するようなもの  
にできるように努力することが必要であろう。

（表 I - 9）体験学習に対する評価

(%)

	そ う 思 う		ど ち ら と も い え な い	そ う 思 わ な い	
	と っ ち も	ま あ		あ ま り	ぜ ん ぜ ん
時間が短かった	35.6	22.0	18.8	10.4	13.2
	57.6			23.6	
いい経験になった	29.8	25.5	23.1	9.2	12.4
	55.3			21.6	
大変だった	29.0	21.9	25.1	10.1	13.9
	50.9			24.0	
おもしろかった	29.1	29.0	20.4	8.6	12.9
	58.1			21.5	
またやってみたい	25.4	17.3	24.2	11.7	21.4
	42.7			33.1	
満足した	20.8	26.4	28.4	10.8	13.6
	47.2			24.4	

（表 I - 10）体験学習への要望

(%)

	そ う 思 う		ど ち ら と も い え な い	そ う 思 わ な い	
	と っ ち も	ま あ		あ ま り	ぜ ん ぜ ん
たくさんのプログラムの中から 選べるようにしてほしい	44.9	25.1	17.2	3.4	9.4
	70.0			12.8	
時間を長くしたほうがよい	41.9	22.1	22.1	4.9	9.0
	64.0			13.9	
内容を考えるべきだ	38.3	24.2	23.5	5.3	8.7
	62.5			14.0	
体験学習を取り入れるのはよい ことだ	29.3	28.1	24.7	3.7	14.2
	57.4			17.9	
観光地を見学したほうがよい	27.3	10.9	36.3	8.6	16.9
	38.2			25.5	

### 3) もう一度修学旅行に行きたいか

修学旅行を経験した中学生たちは「もう一度修学旅行に行きたいと思っているのか」「どんな修学旅行をしたいのか」を調べてみた。その結果、生徒の求める修学旅行は教師側の考えているもの、実際に行われているものとずいぶん離れていることがわかった。

図 I-5 のように56.6%が「ぜひ行きたい」、そして「かなり行きたい」が30.2%あり、両方を合わせると86.8%にも達する。やはり、修学旅行は生徒にとって興味があり、魅力的な行事なのだ。行く前は楽しみにしているし、帰ってからは思い出がいっぱいできる。

男女別に示したのが図 I-6 (図 I-5 に一部) で、「ぜひ行きたい」者は女子生徒のほうが多い。

学校別の比較は図 I-7 で、38.7%から63.6%までの幅がある。各校の男女差も比べてみた(図 I-8、表 I-11)。多くの学校では「ぜひ行きたい」と答えた生徒の割合は女子のほうが多いが、D校、G校では男子生徒のほうが多くなっている。学校別、男女別の

両方を通して考えられることは、各校が「どこへ行き」、「何をしてきたか」によって印象が変わるということだ。同時に「もう一度行きたいかどうか」の気持ちも決めているらしい。

次に、「行きたい方面」をまとめたのが図 I-9、表 I-12である。今のところ実際に修学旅行はほとんど実施されていない方面(北海道37.4%、外国21.1%、沖縄17.6%)への希望が強い。一方、関東、近畿、東北、といった実際に行われている割合の高い方面への希望は数%以下となり、夢と現実のギャップは大きい。

おもに見学したい場所は図 I-10、表 I-13にまとめた。「海に行きたい」生徒が51.8%と最も高く、続いて遊園地が41.3%、湖や山は意外に少なく約20%。修学旅行で最も多く見学コースに入れられているところは、それぞれ10%程度にとどまっている。工場見学に至っては4.6%と極めて低い。ある程度予測はしていたが、せっかくの修学旅行だから何かをしっかりと見てこようという積極的な姿勢が見られないのはがっかりさせられる。

男女の差は図 I-10 に示した。男子はさほど特徴がないが、女子は遊園地は大好き (53.2%) だが山は苦手 (19.2%)、工場見学はしたくない (1.3%) らしい。

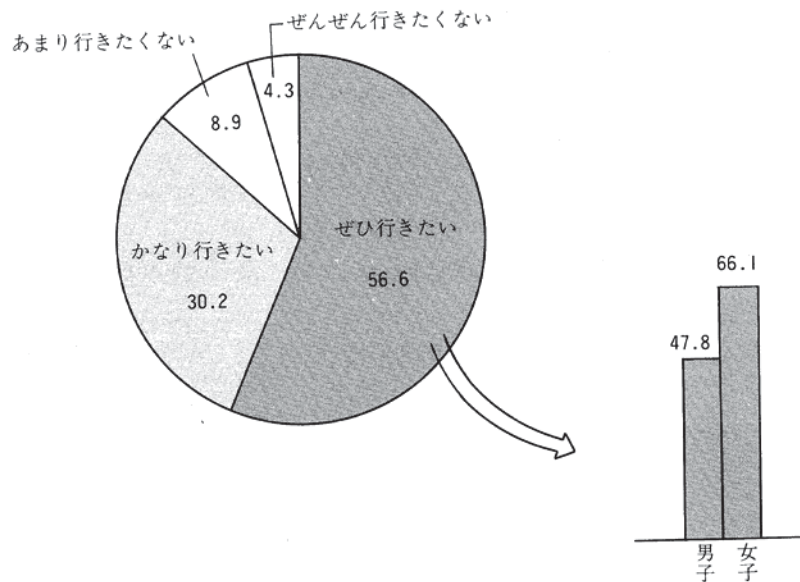
学校差 (地域による違い) を示したのが表 I-13 である。それぞれの学校のある環境を調べてみたところ、「自分の住んでいる環境」とこれから「見学してみたい場所」との間には因果関係がありそうだ。接する機会の多い環境は敬遠し、あまり見たり行ったりしたこ

とのないところへぜひ行きたいという素直な気持ちの表れだろう。

修学旅行は何泊くらいの日程がよいかは図 I-11 のように「3泊4日」が35.7%と一番高く、「5泊6日以上」が28.4%で第2位となっている。男子は表 I-14 でわかるように「5泊6日以上」を希望する者が34.5%あり、「長い旅行がしたい」という気持ちが見られる。女子は42.1%が「3泊4日」の無難な日程を選んでいる。

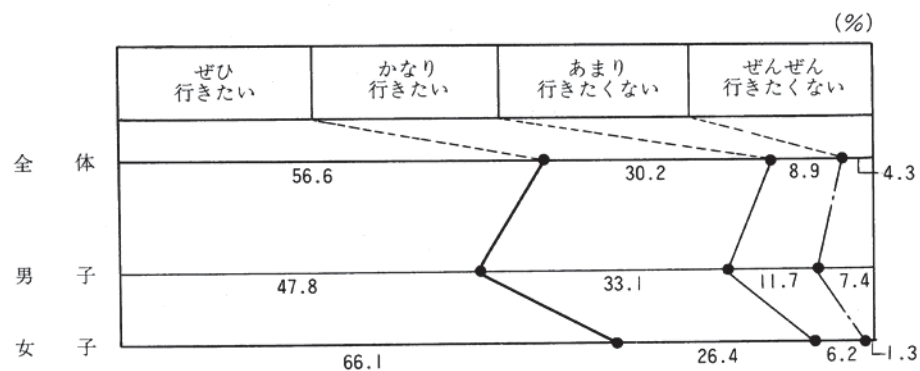
(図 I-5) もう一度修学旅行に行きたいか

→やはり修学旅行は楽しいもの (%)



(図 I-6) もう一度修学旅行に行きたいか×性

→女子のほうが強く希望



旅行先での行動は「仲のよい友だちと一緒に」が67.8%と圧倒的に多い(図I-12、表I-15)。好きなものを選ばせればたぶんそうなるだろうと思っていた。しかし、約17%の生徒が「班単位」の意義を認めていることを知り、「ちゃんとわかっている生徒がいるな」と胸をなでおろした。

旅行先でやってみたいことのトップはスキー(52.4%)である。続いてスケート(31.7%)、バター・チーズを作る(24.2%)となっている(図I-13)。近頃、修学旅行にどんどん取り入れられている体験学習的な項目はどれも人気がない。

男女別に修学旅行でしたいことのベスト10をひろってみた(表I-16)。男女の好みの違いや、男子らしさ、女子らしさがチラリとうかがえる。学校クロスを表I-17にまとめた。サンプル数の多少で微妙なところがあるが、「行ってみたいところ」でも述べたように、生徒の回答は学校や生徒の住んでいる環境で

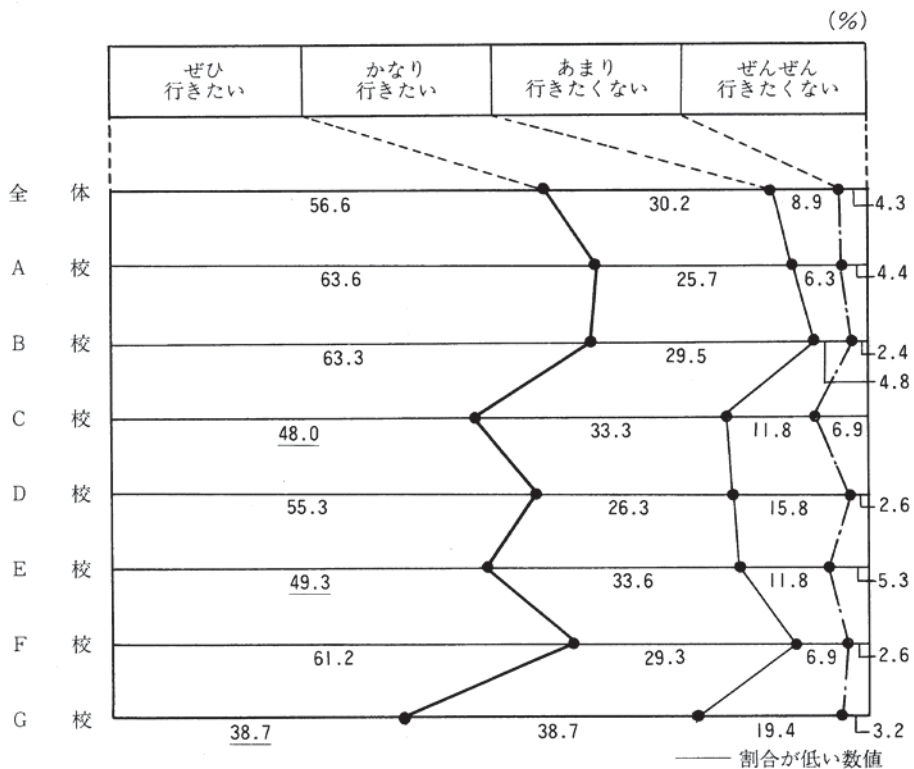
ずい分違ってくることを示している。

修学旅行に「もう行きたくない生徒」は図I-5のように13.2%であるが、それらの生徒の気持ちは図I-14のようである。自由な時間が少なく(30.8%)、きまりが多い(21.0%)からもう行きたくない。わざわざ多くの人で旅行をする必要もなく(11.1%)、一度行けば十分(9.1%)だそうである。

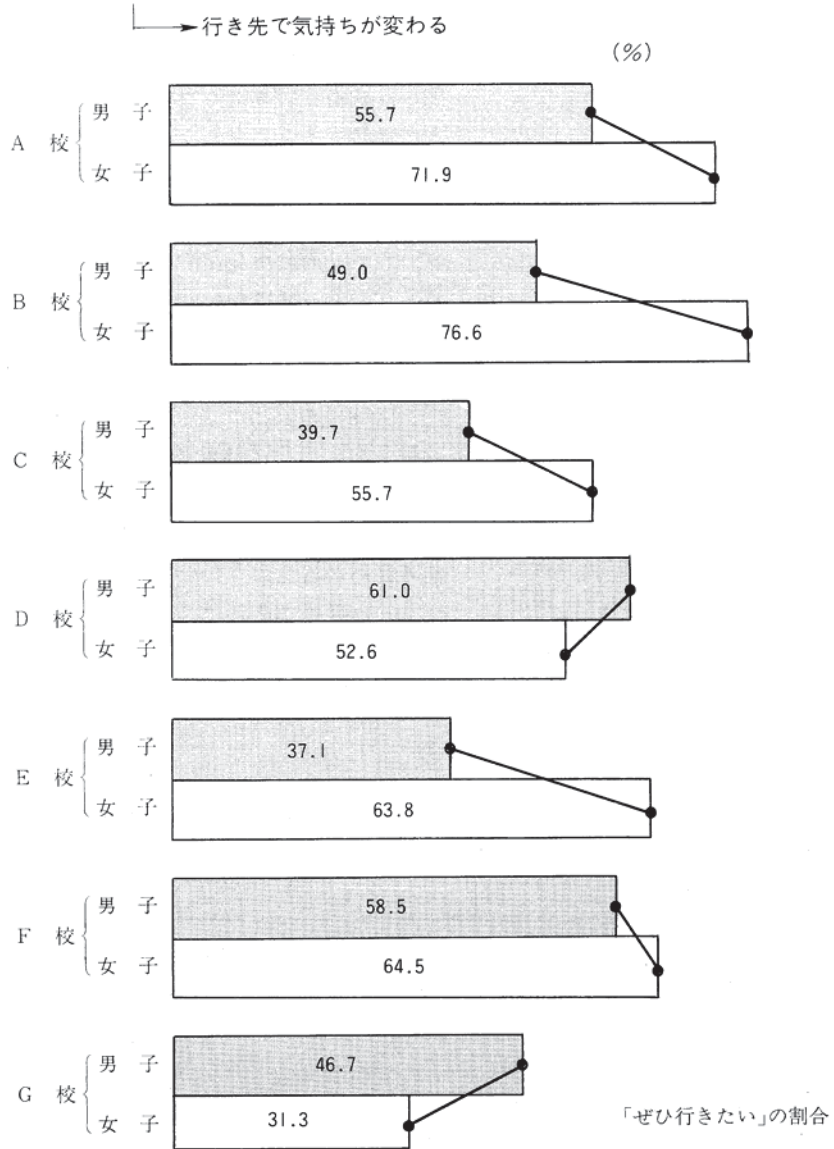
このように「もう一度修学旅行に行くならば」という調査をしたが、生徒は自由奔放を望んでいる。修学旅行の目的や意義、そして内容が問い直されている今日だが、新しい修学旅行を生み出すのはそう簡単ではなさそうだ。生徒の希望はかなえてあげたいが、理屈は抜きにしても費用等すぐには片づかない問題が多い。

理想と現実をどこまで近づけられるかが当面の課題かもしれないが、9割近くの生徒が「もう一度修学旅行に行ってみよう」と思っていることでひとまず安心した。

(図I-7) もう一度修学旅行に行きたいか×学校



(図 I - 8) もう一度修学旅行に行きたいか×学校×性



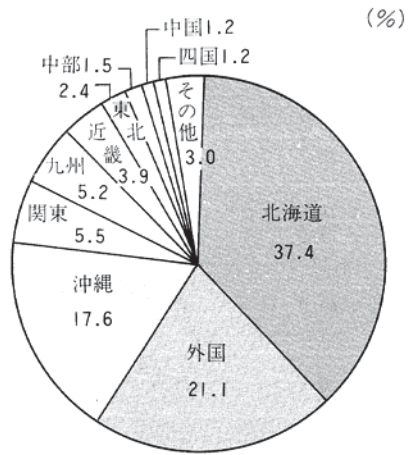
(表 I -11) もう一度修学旅行に行きたいか

(%)

学校	性別	ぜひ 行きたい	かなり 行きたい	あまり 行きたくない	ぜんぜん 行きたくない
A	男子	55.7	29.3	7.1	7.9
	女子	71.9	22.0	5.3	0.8
B	男子	49.0	37.2	8.5	5.3
	女子	76.6	21.6	1.8	0.0
C	男子	39.7	28.8	19.2	12.3
	女子	55.7	38.6	4.3	1.4
D	男子	61.0	27.8	5.6	5.6
	女子	52.6	21.1	26.3	0.0
E	男子	37.1	36.3	18.5	8.1
	女子	63.8	29.0	4.8	2.4
F	男子	58.5	35.8	3.8	1.9
	女子	64.5	22.6	9.7	3.2
G	男子	46.7	33.3	13.3	6.7
	女子	31.3	43.7	25.0	0.0

(図 I - 9) どの方面に行きたいか

↳ 北海道へ行きたいな



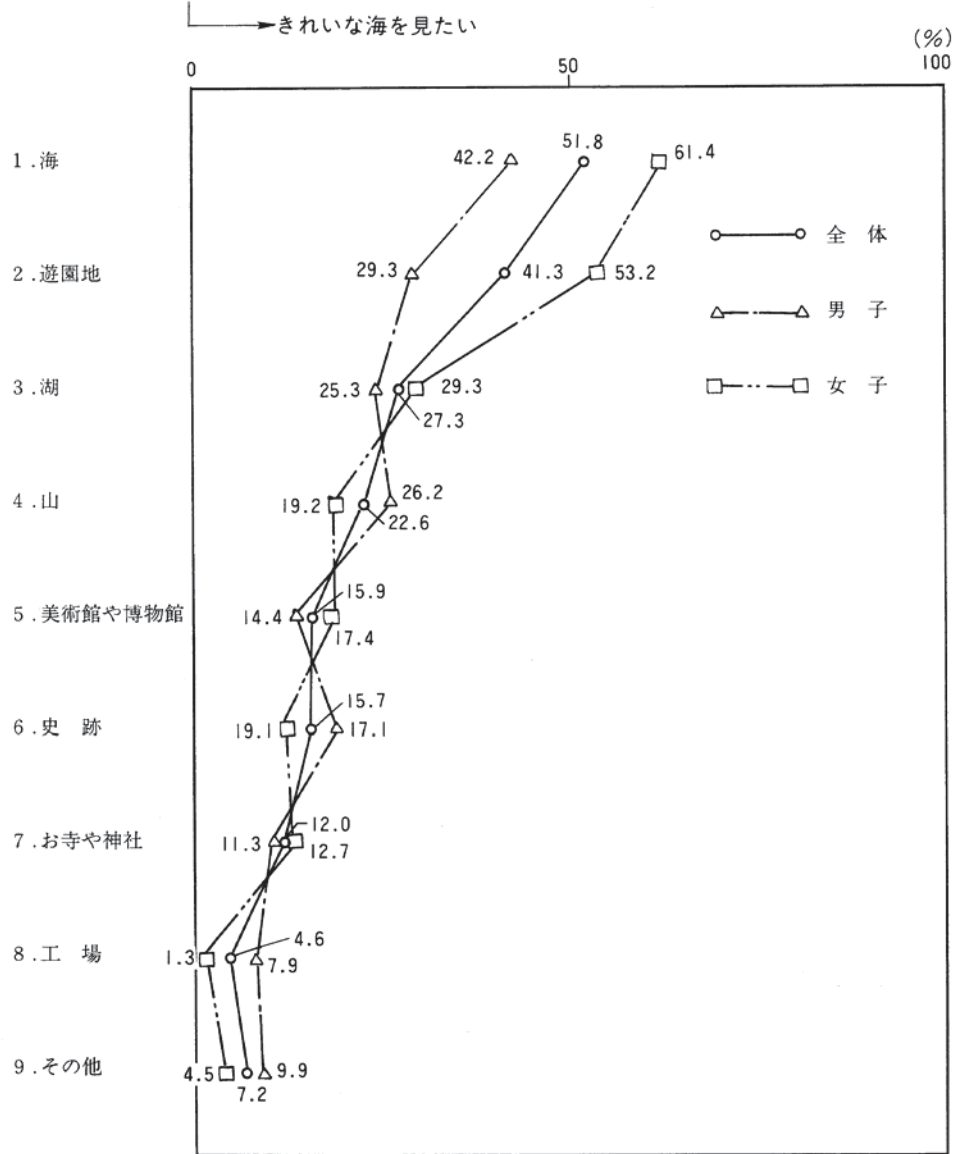
(表 I - 12) どの方面に行きたいか

(%)

	全 体	男 子	女 子
北 海 道	37.4	35.6	38.9
東 北	2.4	3.4	1.6
関 東	5.5	3.4	7.5
中 部	1.5	2.3	0.8
近 畿	3.9	4.7	3.2
中 国	1.2	1.4	1.0
四 国	1.2	1.4	1.0
九 州	5.2	4.1	6.3
沖 縄	17.6	15.8	19.2
外 国	21.1	22.3	19.9
そ の 他	3.0	5.6	0.6



(図 I - 10) どんないところを見学したいか



(表 I - 13) どんなところを見学したいか×学校

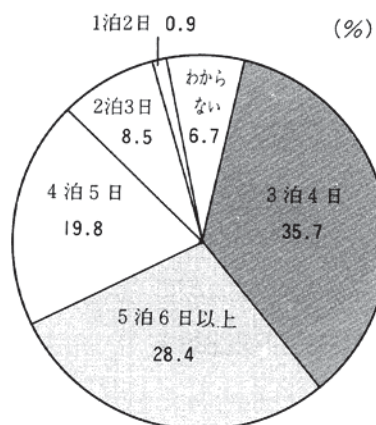
(%)

	A 校	B 校	C 校	D 校	E 校	F 校	G 校
山	15.3 (18.4 12.0)	15.0 (15.5 15.2)	27.8 (29.2 24.3)	35.9 (52.6 15.8)	35.6 (38.2 33.1)	15.5 (20.8 11.3)	19.4 (33.3 6.3)
海	52.9 (46.1 60.2)	47.2 (40.2 53.6)	55.6 (41.7 71.4)	56.4 (52.6 63.2)	51.1 (37.5 64.5)	56.0 (49.1 61.3)	41.9 (26.7 56.3)
湖	25.9 (26.2 25.6)	22.4 (19.6 25.9)	31.3 (31.9 31.4)	33.3 (42.1 26.3)	28.4 (20.6 37.1)	25.9 (28.3 24.2)	35.5 (33.3 37.5)
遊園地	52.6 (39.7 66.2)	58.4 (39.2 73.2)	32.6 (30.6 35.7)	30.8 (26.3 31.6)	23.9 (14.0 34.7)	40.5 (20.8 58.1)	32.3 (33.3 31.3)
美術館や 博物館	19.0 (14.9 23.3)	12.1 (15.5 9.8)	19.6 (19.4 20.0)	7.7 (5.3 10.5)	14.8 (10.3 20.2)	13.8 (13.2 14.5)	19.4 (33.3 6.3)
お寺や神社	15.3 (11.3 19.5)	5.6 (7.2 4.5)	14.6 (19.4 10.0)	7.7 (10.5 0.0)	16.3 (12.5 20.2)	4.3 (1.9 6.4)	12.9 (20.0 6.3)
史 跡	16.8 (19.9 13.5)	8.9 (14.4 4.5)	15.3 (18.1 12.9)	15.4 (10.4 21.1)	20.8 (20.6 21.0)	13.8 (22.6 6.5)	16.1 (33.3 0.0)
工 場	3.3 (4.3 2.3)	4.7 (10.3 0.0)	9.7 (19.4 0.0)	7.7 (15.8 0.0)	3.0 (4.4 1.6)	3.4 (3.8 3.2)	3.2 (6.7 0.0)
その他	5.5 (8.5 2.3)	7.0 (7.2 7.1)	13.2 (23.6 2.9)	7.7 (15.8 0.0)	4.5 (5.1 4.0)	8.6 (11.3 6.5)	9.7 (6.7 12.5)

全体%  
(男子%  
女子%)

(図 I-11) 日程は何泊くらいがよいか

↳ 3泊4日はしたい



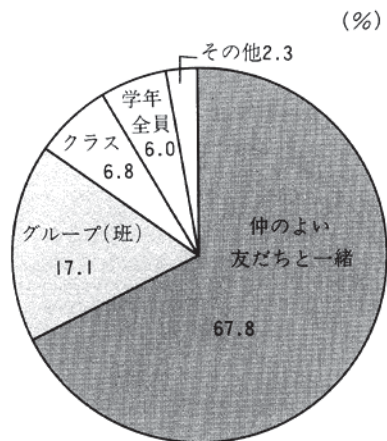
(表 I-14) 日程は何泊くらいがよいか

(%)

	全体	男子	女子
1泊2日	0.9	1.1	0.6
2泊3日	8.5	9.7	7.5
3泊4日	35.7	28.5	42.1
4泊5日	19.8	16.5	22.8
5泊6日以上	28.4	34.5	23.0
わからない	6.7	9.7	4.0

○=最大値

(図 I - 12) 旅行先の行動単位

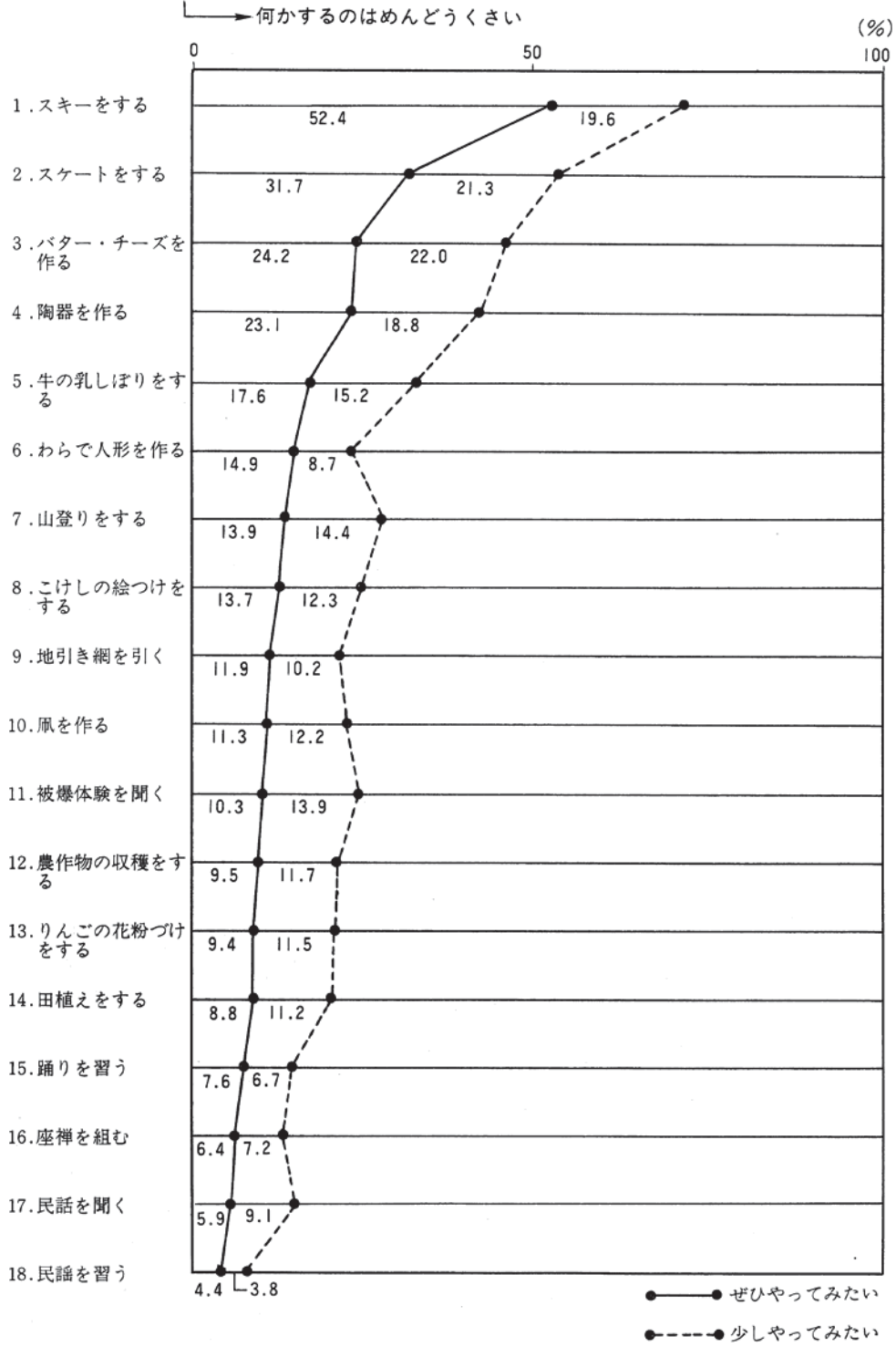


(表 I - 15) 旅行先の行動単位×性

(%)

	全体	男子	女子
学年全員で	6.0	4.7	7.1
クラス単位で	6.8	7.0	6.7
グループ(班)単位で	17.1	17.3	16.9
仲のよい友だちと一緒に	67.8	66.7	68.7
その他	2.3	4.3	0.6

(図 I - 13) 旅行先でやってみたいこと



(表 I -16) 修学旅行でしたいこと・ベスト10

(%)

男 子			女 子		
1位	スキーをする	52.8	1位	スキーをする	51.9
2位	スケートをする	29.8	2位	スケートをする	33.6
3位	山登りをする	20.0	3位	バター・チーズを作る	31.9
4位	陶器を作る	17.3	4位	陶器を作る	28.3
5位	わらで人形を作る	17.1	5位	牛の乳しぼりをする	21.1
6位	バター・チーズを作る	15.5	6位	こけしの絵つけをする	16.0
7位	牛の乳しぼりをする	13.7	7位	わらで人形を作る	12.8
8位	地引き網を引く	13.7	8位	りんごの花粉づけをする	10.6
9位	凧を作る	12.9	9位	被爆体験を聞く	10.4
10位	こけしの絵つけをする	11.0	10位	地引き網を引く	10.3

「ぜひやってみたい」割合



(表 I - 17) 修学旅行でしたいこと×学校

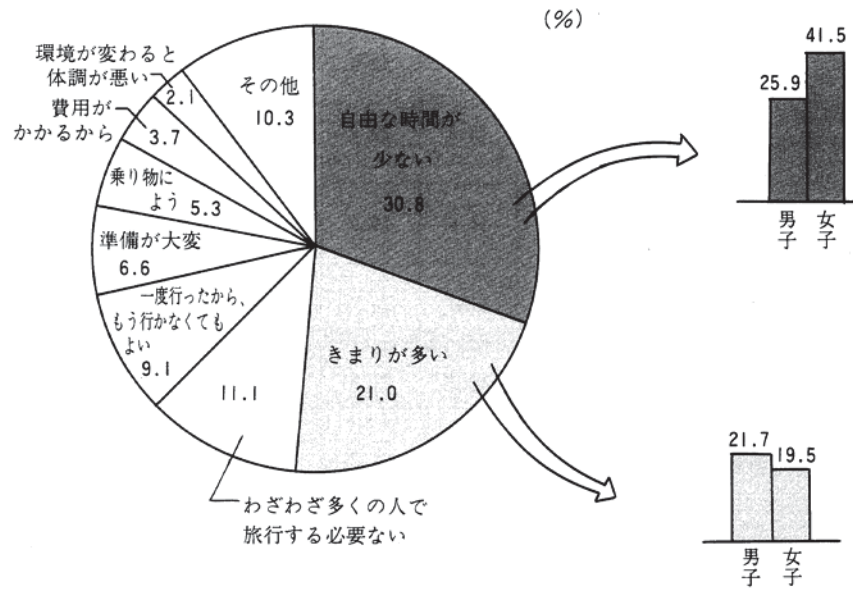
(%)

	A 校	B 校	C 校	D 校	E 校	F 校	G 校
スキーをする	40.0	42.9	57.9	54.5	62.9	60.6	68.0
スケートをする	27.5	19.7	42.9	39.4	31.3	52.9	16.0
バター・チーズを作る	24.4 (14.0, 34.7)	16.8 (9.5, 23.1)	22.2 (15.5, 28.8)	21.2 (22.2, 22.4)	22.0 (11.9, 31.4)	38.8 (28.6, 49.1)	40.0 (38.5, 41.7)
陶器を作る	25.9	14.6	19.0	33.3	23.8	29.8	32.0
牛の乳しぼりをする	11.5	11.6	22.2	24.2	21.0	24.0	28.0
わらで人形を作る	11.2	11.2	21.6	21.2	17.4	9.6	28.0
山登りをする	12.0 (17.4, 6.6)	6.6 (10.7, 3.3)	16.8 (24.1, 10.8)	9.1 (5.6, 14.3)	21.0 (29.4, 14.4)	11.7 (20.4, 3.8)	20.0 (30.8, 8.3)
こけしの絵つけをする	11.2	6.1	16.7	24.2	16.1	17.3	24.0
地引き網を引く	7.4	7.1	13.5	21.2	16.1	12.6	28.0
凧を作る	9.9	5.1	15.9	12.5	12.6	14.6	20.0
被爆体験を聞く	5.0	8.7	14.3	6.1	12.5	13.5	24.0
農作物の収穫をする	3.3	6.1	12.7	12.5	14.3	14.4	16.0
りんごの花粉つけをする	5.8	5.1	16.0	6.1	10.3	12.7	25.0
田植えをする	3.7	5.1	12.7	9.1	12.9	11.5	20.0
踊りを習う	6.6	5.6	10.4	3.0	9.4	7.7	8.0
座禅を組む	6.2	3.6	4.8	12.1	9.4	3.8	12.0
民話を聞く	4.9	4.1	8.7	3.0	5.8	7.8	12.0
民謡を習う	3.3	2.6	8.7	3.0	4.9	3.8	4.0

( ) 内の数値は左側男子、右側女子の割合  
「ぜひやってみたい」割合

(図 I -14) 修学旅行にもう一度行きたくないのは

↳ もっと自由がいい





## 2. 中学2年生にとっての修学旅行

修学旅行に行くのは、多くの場合、中学3年生のときである。本節では、中学2年生が

来年出かける修学旅行に対して、どのような意識を持っているのかを考察する。

### 1) 希望する修学旅行先・期間

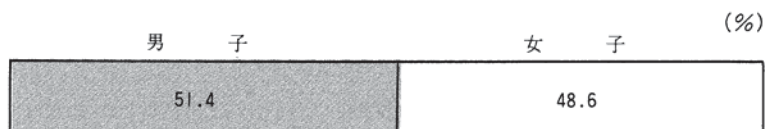
最初に、どこへ（地域・目的地）修学旅行に行きたいのかをたずねてみた。その結果、一番人気が高かった地域は外国(24.7%)、第2位が北海道(22.6%)、第3位が沖縄(19.9%)、そして、関東(9.8%)、近畿(8.7%)と続く。先輩たちが実際に行っている地域は、関東(42.1%)、近畿(23.7%)、東北(14.4%)、中部(13.8%)の順であるから、希望と現実とは、だいぶ異なることがわかる。だが見方を変えれば、外国、北海道、沖縄という「理想」が上位にあげられている一方で、関東、近畿といった「定番」も根強い希望がある、ということができるとはならないか。なお、実際の修学旅行先として、関東が42.1%と最も高かったのは、サンプルのうち仙台市の中学2年生が43.6%を占めているためと思われる(図I-16、図I-17)。

行きたい場所を目的地で聞いたところ、約半数の生徒が遊園地と海をあげ、次に多いのが湖と山、そして、史跡、お寺や神社、美術館や博物館の順となる。これを男女別にみると、男子は女子よりも山、史跡、工場を希望

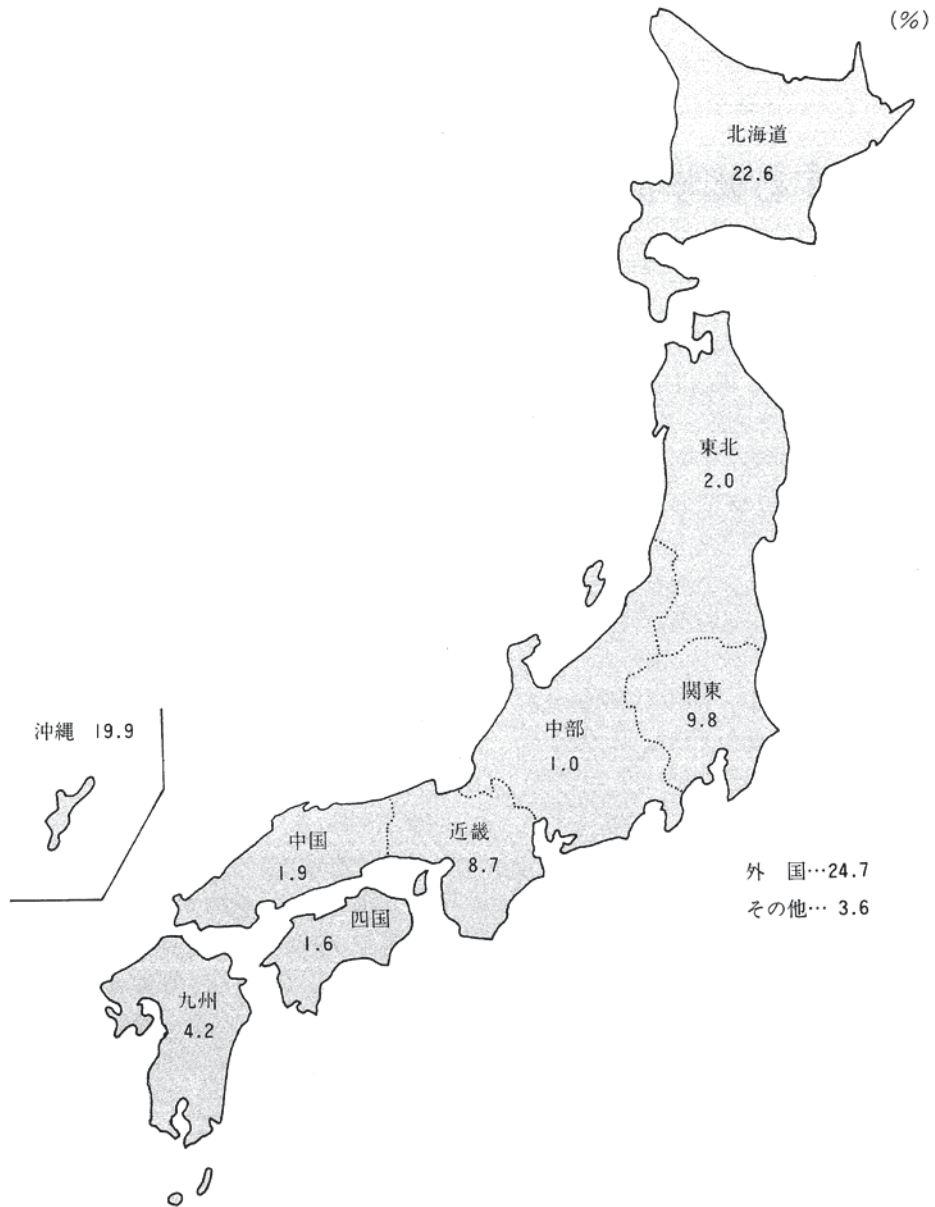
する者が多く、反対に女子は男子よりも海や遊園地を望む傾向がみられる(表I-18)。後に検討するように、修学旅行の目的観には男女差がある。例えば、修学旅行の目的を「義務教育の総まとめ」としているのは、男子では12.9%いるのに対して、女子ではわずか4.7%である。また、女子の73.1%があげている「中学校生活の思い出作り」は、男子では、1割少ない63.0%だった。このことから、男子は修学旅行をどちらかといえば、1つの「学習」ととらえているのに対して、女子は「友達と楽しく過ごすこと」を重視していると考えることができる。この違いが、「行ってみたい場所」に、端的に表れていると思われる(表I-19)。

次に、旅行日数についてであるが、現行では、2泊3日が一般的であるのに対して、3泊4日や5泊6日以上を望む者が多い。これは旅行先として、外国や北海道、沖縄という遠隔地を求めていることと関連があらうが、「より長い旅を」という期待の表現と見られよう(表I-20)。

(図I-15) サンプルの男女比



(図 I -16) どこへ行きたいか (地域)



(図 I - 17) 中 3 の旅行先 (地域)



(表 I-18) どこへ行きたいか (目的地)

(%)

	全 体	男 子		女 子
山	20.0	26.5	≫	13.4
海	47.6	44.6	<	51.5
湖	25.7	25.4		26.2
遊園地	52.9	43.5	<	63.5
美術館や博物館	15.2	14.5		15.7
お寺や神社	15.9	16.0		15.7
史 跡	16.6	21.1	≫	12.0
工 場	5.9	8.2	≫	3.1
その他	10.5	12.2		8.2

不等号は差の程度を表す

(表 I -19) 修学旅行の目的①

(%)

	全 体	男 子		女 子
教室では学べない学習をする	49.1	51.8	>	46.8
自然に親しむ	37.5	39.8	>	35.1
集団生活の訓練	44.6	40.1	<	49.9
公衆道徳を身につける	18.7	21.9	>	15.2
友情を深める	49.8	46.5	<	53.4
先生と親しくなる	9.2	11.1	>	7.5
ふだんできない体験をする	62.8	62.5	<	63.5
日常生活からの脱出	17.7	22.8	≫	12.6
中学校生活の思い出作り	67.9	63.0	<	73.1
義務教育のまとめ	8.8	12.9	≫	4.7
その他	3.0	4.3	≫	1.6

不等号は差の程度を表す

(表 I -20) 日 数

(%)

	現 状	希 望
1泊2日	0.1	3.0
2泊3日	88.9	13.1
3泊4日	6.3	32.6
4泊5日	0.0	16.2
5泊6日以上	1.1	31.0
わからない	3.6	4.1

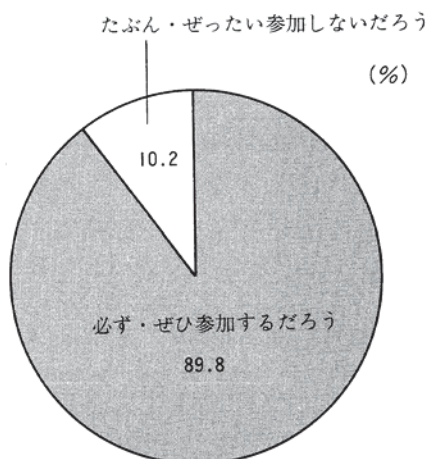
## 2) 修学旅行に参加する理由、参加したくない理由と目的観

「修学旅行が自由参加だとしたら、参加するか」という質問をしたところ、9割近くが参加したいと答えている(図I-18)。中学2年生が修学旅行に期待するものは、何だろうか。

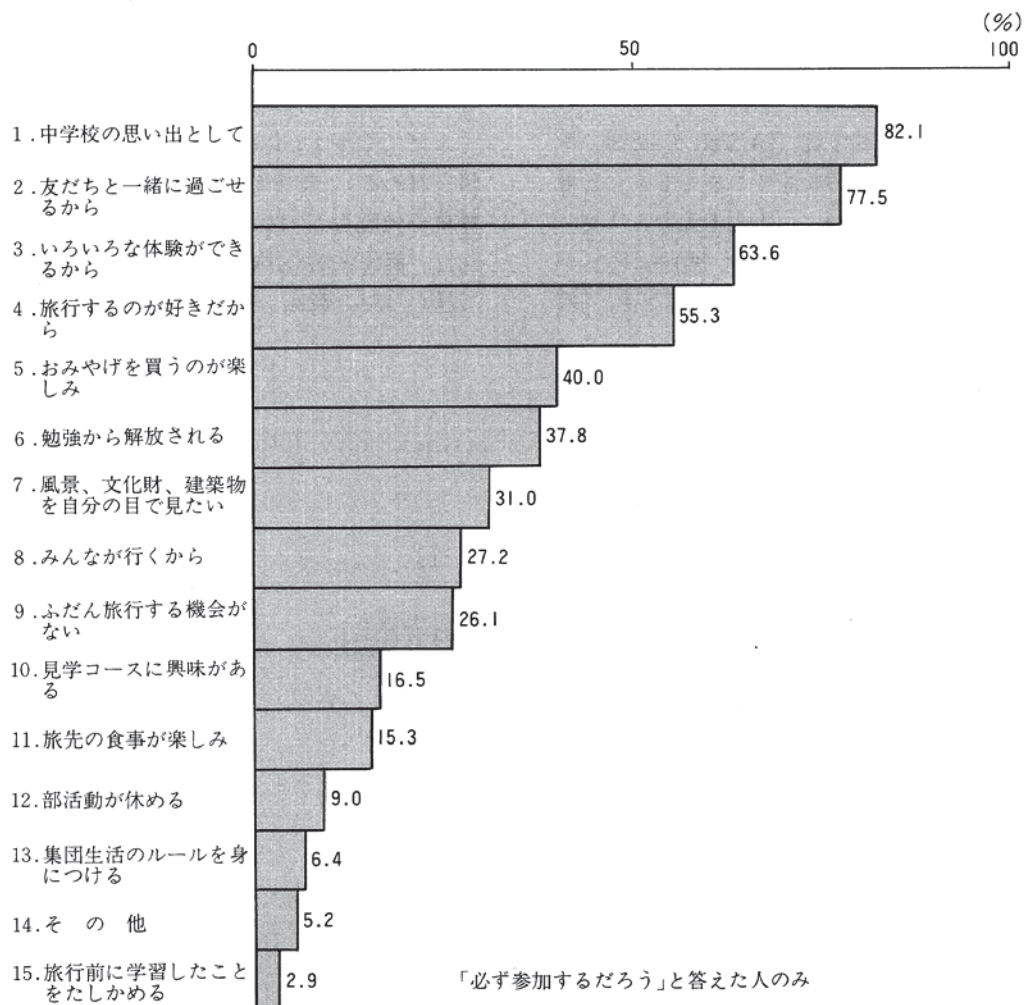
図I-19は、「必ず参加するだろう」と回答した者があげた「参加したい理由」を数値の高い順に示したものである。これをみると、

「中学校の思い出として」(82.1%)、「友だちと一緒に過ごせるから」(77.5%)が約8割と多く、「いろいろな体験ができるから」(63.6%)、「旅行するのが好きだから」(55.3%)、「おみやげを買うのが楽しみだから」(40.0%)が続いている。やはり中学生にとって、修学旅行は楽しい思い出作りの1つとして欠かせないものようだ。その反面、「勉強から

(図I-18) 自由参加の場合、参加するか



(図 I - 19) 参加する理由



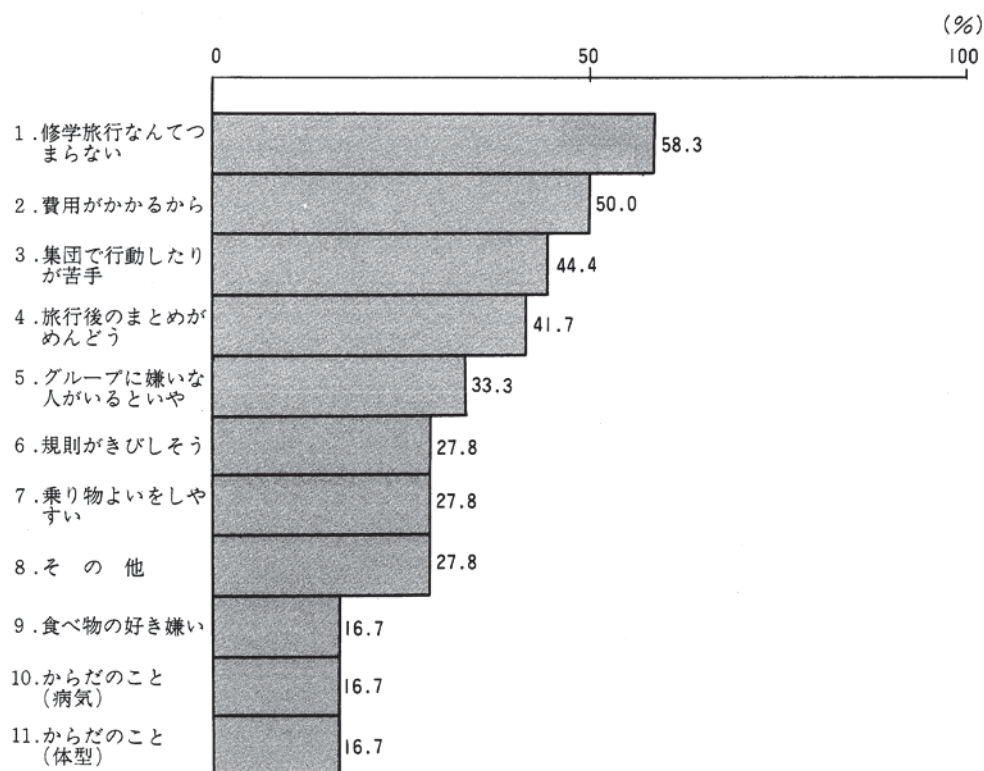
解放される」(37.8%)、「みんなが行くから」(27.2%)という消極的な理由が3割もあるのが気にかかる。見学コース自体に、積極的な興味・関心をもって参加するのが望ましいのはいうまでもない。

ところで、修学旅行に参加したくないという中学2年生も約1割(10.2%)いたが、その半数が「修学旅行なんてつまらない」と考えている。図I-20に、自由参加なら「ぜったい参加しないだろう」という者があげた「不参加の理由」を数値の高い順に並べたが、「修

学旅行なんてつまらない」(58.3%)のほか、「費用がかかる」(50.0%)、「集団行動が苦手」(44.4%)、「旅行後のまとめがめんどろ」(41.7%)などの理由が多い。

修学旅行の目的に関する理解を全体でみると、「中学校生活の思い出を作る」(67.9%)、「ふだんできない体験をする」(62.8%)、「友情を深める」(49.8%)、「教室では学べない、歴史や地理などの生きた学習をする」(49.1%)、「集団生活の訓練をする」(44.6%)の順で多かった。概ね、妥当な理解であろう。男

(図I-20) 参加しない理由



「ぜったい参加しないだろう」と答えた人のみ



女別にみると、先に述べた点のほかでは、男子のほうが女子よりも、「日常生活からの脱出」(男子22.8% ≧ 女子12.6%)をあげる者が多いのが目を引く(表I-19)。男子は女子に比べて、家庭や学校での生活に窮屈な思いをしているのだろうか。

ところで、「必ず参加するだろう」という者と「ぜったい参加しないだろう」という者とは、修学旅行の目的観に違いがみられる。

「ぜったい参加しないだろう」と答えた者が考える修学旅行の目的で、「必ず参加するだろ

う」とする者の回答に比べて数値がきわめて高かったのは、「義務教育のまとめをする」であった。反対に、数値が大幅に低かったのは、「友情を深める」「ふだんできない体験をする」である。目的のとらえ方の違いが、旅行に対する姿勢に表れているといえよう(表I-21)。

(表I-21) 修学旅行の目的②

(%)

	必ず参加するだろう		ぜったい参加しないだろう
教室では学べない学習をする	52.9	>	41.7
自然に親しむ	41.9	>	30.6
集団生活の訓練	47.8	>	33.3
公衆道徳を身につける	19.9	>	13.9
友情を深める	55.1	≫	27.8
先生と親しくなる	10.1	>	8.3
ふだんできない体験をする	70.2	≫	36.1
日常生活からの脱出	16.8	<	19.4
中学校生活の思い出作り	71.4	>	52.8
義務教育のまとめ	7.8	≪	25.0
その他	2.4	≪	11.1

不等号は差の程度を表す

### 3) 服装、おこづかい、グループ

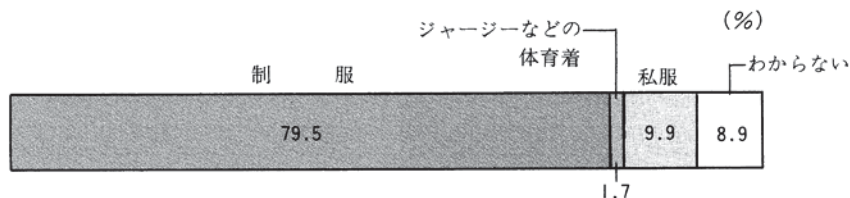
修学旅行の服装、おこづかい、グループについての質問に対する回答をみていこう。

まず、服装については、ほとんどの学校が「制服」を着用させている(図 I-21)。だが、生徒の希望は、「私服」が圧倒的に多く、全体で71.8%である。「見学時の服装はどうするのがよいか」(表 I-22)、「私服で行くとしたら新しい服を買うか」(表 I-23)という質

問をしたところ、おもしろい結果がでた。それは女子は男子よりも、どちらかといえば制服で行くのがよいと考えているのであるが、もし私服を着てもよいとしたら、過半数が新しい服を買うだろう、と答えていることである。

次におこづかいについては、「2万円以上」と答えた者が一番多く(31.0%)、続いて「1

(図 I-21) 服装の実態



(表 I-22) 希望する服装

服装の種類	希望する服装 (%)		
	全体	男子	女子
制服	23.0	17.1	28.5
ジャージーなどの体育着	2.7	2.7	2.8
私服	71.8	77.2	66.8
その他	2.5	3.0	1.9

万円以上2万円未満」(30.4%)、「5,000円以上1万円未満」(25.0%)となる(表I-24)。1人当たりのおこづかいの平均額は、7,300円(日本修学旅行協会『修学旅行のすべて』昭和62年版より)といわれている。生徒は、できるだけたくさんおこづかいを持っていきがっているようだ。修学旅行に参加する理由として、「おみやげを買うのが楽しみだから」をあげた者が、4割もいたのもうなずける(図I-19)。

さて、旅行先を見学する際のグループにつ

いてであるが、「クラスごとに行きたい」という生徒は、4.2%しかいなかった。男女とも、「5～7人」あるいは「2～4人」のグループで行動したいと答えている。男女別にみると、男子は「同性のみの5～7人のグループ」を、女子は「異性を含めた5～7人のグループ」を望む傾向がみられる。また、「2～4人のグループ」なら「同性のみのグループ」が好まれるようだ(表I-25)。

(表I-23) 新しい服を買うか

(%)

	全 体	男 子	女 子
きっと買うだろう	42.9	31.2	55.7
もしかしたら買うかもしれない	47.3	53.7	40.4
買わないで、今ある服を着ていこう	9.8	15.1	3.9

(表I-24) おこづかいの額

(%)

いない	0.7
1000円以上 3000円未満	2.4
3000円以上 5000円未満	10.5
5000円以上10000円未満	25.0
10000円以上20000円未満	30.4
20000円以上	31.0

○=最大値

(表 I -25) グループの形態

(%)

	全 体	男 子	女 子
クラスごとに	4.2	3.9	4.5
同性のみの5～7人のグループで	27.6	30.7	24.6
異性を含めた5～7人のグループで	25.4	21.5	29.5
同性のみの2～4人のグループで	23.1	20.8	25.7
異性を含めた2～4人のグループで	9.9	11.9	7.7
1人で	3.7	5.7	1.2
その他	6.1	5.5	6.8

○=最大値

## 4) 持っていきたいもの、やってみたいこと

修学旅行に持っていきたいものを調べると、カメラ(89.9%)、私服(87.2%)、トランプ(82.5%)、ウォークマン(73.4%)などは、男女共通して多い。男女別にみられる違いとしては、男子は、マンガ、花札、小型テレビ、CDプレーヤー、ファミコン、ビデオなどの「遊び道具」をあげる者が多いのに対して、女子は、パジャマ、ドライヤー、整髪剤というような「実用的なもの」を持っていきたがる傾向がみられることである(表 I -26)。

修学旅行の目的についての質問で、男子が女子の回答数を上回っているものに、「義務教育の総まとめ」や「日常生活からの脱出」があった。だが、「遊び道具」を持っていくことで、「義務教育の総まとめ」はできないし、マンガや小型テレビで遊ぶのでは、場所が変わっただけで、真の意味の「日常生活からの脱出」ではない。「中学校生活の思い出作り」の一助となり、修学旅行にふさわしい持ちものとは、どんなものだろうか。

近年、修学旅行に「体験学習」を取り入れる中学校が増えてきている。その目的は、「教

室では学べない、歴史や地理の生きた学習」や「ふだんできない体験」をさせることにある。図 I -22は、「体験学習」のメニューとして考えられるものを例示し、中学2年生に「やってみたいこと」をたずねた結果である。

これをみると、男女ともに一番人気が高いのは、「スキーをする」(男子69.3%：女子66.0%)、二番目は「スケートをする」(男子49.9%：女子51.7%)だった。スポーツ以外では、「陶器を作る」(男子36.3%：女子36.1%)に、男女共通の関心がみられる。男子が女子よりもやってみたいことは、「山登り」「地引き網引き」「わら人形作り」「凧作り」であり、女子が多いのは「牛の乳しぼり」「バター・チーズ作り」であった。男子が体力を要するものや創造的なものを選んでのに対して、女子は食物に関するものを好むようだ。ここには、性別による興味の違いが明らかになっている。実際に、修学旅行で「体験学習」をした後、どんな感想を持つのか楽しみである。

(表 I-26) 持っていきたいもの

(%)

	全 体	男 子	女 子
マンガ	49.2	61.2 >	36.5
小 説	34.2	35.6	32.0
雑 誌	55.0	58.9	50.5
カメラ	89.9	84.8	95.5
ビデオ	15.5	23.3 >	7.3
ポータブルテレビ	28.0	41.3 >	14.2
ラジカセ	33.8	39.9	28.1
ウォークマン	73.4	74.6	72.6
CDプレーヤー	30.7	40.6 >	20.3
パジャマ	78.6	65.8 <	92.1
ドライヤー	72.7	59.9 <	86.5
整髪剤	63.7	55.9	72.2
ネグリジェ	6.4	8.6	4.4
トランプ	82.5	85.1	80.1
花 札	40.1	54.8 >	24.8
ゲーム類	70.5	78.7	61.5
ファミコン	14.9	25.2 >	4.0
私 服	87.2	86.5	87.8

(図 I-22) やってみたいこと

